

2022年度（2022年4月～2023年3月）
特別勘定の現況
 決算のお知らせ

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	投資信託名
ライフ プロデュース 30	世界株式	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 基本資産配分は、株式30%、債券70%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド (適格機関投資家私募)
	世界債券		適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1
ライフ プロデュース 50	世界株式	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 基本資産配分は、株式50%、債券50%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド (適格機関投資家私募)
	世界債券		適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1
ライフ プロデュース 70	世界株式	主として日本を含む世界各国の株式および債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。 基本資産配分は、株式70%、債券30%とし、一定の規律に従いリバランス*1を行います。	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド (適格機関投資家私募)
	世界債券		適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1
特別勘定名	運用方針		
ライフプロデュース 日本株式	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー1 に主に投資することを基本とします。		
ライフプロデュース 世界株式	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド (適格機関投資家私募) に主に投資することを基本とします。		
ライフプロデュース 世界債券	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンドー1 に主に投資することを基本とします。		

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

*1 「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。

＜お知らせ＞

特別勘定「ライフプロデュース30/50/70」と特別勘定「ライフプロデュース世界株式」で利用している投資信託「アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド(適格機関投資家私募)」のマザー・ファンドに關しまして、委託会社であるアクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、2022年9月末以降AXA Investment Managers UK Ltd.(英国)に運用の指図に關する権限を委託しました。特別勘定の投資方針に変更はありません。

- ・アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。(*金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。)
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に關するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・投資信託に關するデータは、投資信託の委託会社による運用報告を、そのまま掲載しております。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。



本商品は、アクサ生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険商品です。預金ではありません。
 そのため、預金とは異なり元本保証はありません。

【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数(TOPIX)は前年度末比+2.93%の2,003.50ポイント(前年度末1,946.40ポイント)となりました。米国の大幅な政策金利の引き上げに伴う米国株式市場の下落の影響等を受けて、下押し局面があったものの、中国のゼロコロナ政策の停止による景気回復期待や企業業績の改善等を受けて日本株式市場は上昇しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は下落しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比-4.05%の33,274.15ドル(前年度末34,678.35ドル)となりました。大幅な物価上昇を抑制する為に、年度初よりFRB(連邦準備制度理事会)が連続的に利上げを行ったこと等を嫌気して、米国株式市場は2022年9月に29,000ドルを割り込む水準まで下落しました。その後、物価上昇率の伸びがピークアウトしてきたこと等から、米国株式市場は値を戻す展開となり、下落幅を縮小させました。年度末にかけて、利上げの影響で複数の米国の地方銀行が破綻したこと

から再度下落する局面もありましたが、金融不安を防ぐために政策当局が迅速に対応したことから、下落幅は限定的でした。欧州株式市場は上昇し、独DAX指数は+8.42%、仏CAC40指数は+9.95%となりました。大幅な物価上昇に対応する為に、ECB(欧州中央銀行)が連続的に政策金利を引き上げたことやそれに伴う長期金利の上昇を嫌気して下落する局面もありましたが、中国のゼロコロナ政策の停止による景気回復期待や企業決算が好調であったこと等から上昇しました。年度末にかけては、クレディ・スイスの株価が大幅下落したことにより金融不安に対する懸念が台頭し、下落する局面もありましたが、欧州大手の金融機関であるUBSが救済合併を行ったことから市場に対する影響は限定的でした。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には0.351%(前年度末0.220%)となりました。2022年4月～11月の期間においては、大幅な政策金利引き上げに伴い米国の金利が上昇したことを受けて、日本の長期金利は強含みで推移したものの、日銀が物価上昇率が継続的に2%(前年比)を上回る経済環境にはないとして、超金融緩和を継続したことから、長期金利は従来の誘導目標上限近辺(0.25%)にて推移しました。12月には日銀が長短金利をコントロールする際の許容変動幅を拡大させたことが市場において「利上げ」と捉えられ、10年国債金利は0.50%程度まで上昇しました。その後、米国において複数の地方銀行が破綻したことを受けて米国の長期金利が低下したこと等から、期末にかけて日本の長期金利は低下しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には3.468%(前年度末2.338%)となりました。目標を大幅に上回る物価上昇に対応して、FRB(連邦準備制度理事会)が連続的に利上げを行ったこと等を受けて、2022年10-12月期に米国10年金利で4%を超える水準まで上昇しました。その後、物価上昇率が鈍化したことを受けて、米国金利もピークアウトしました。2023年に入ると利上げの影響を受けて米国の複数の地方銀行が破綻したこと等を受けて、米国の長期金利は低下し上昇幅を縮小させました。

欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には2.292%(前年度末0.548%)となりました。エネルギー価格を中心とした物価の大幅な上昇を抑制する為にECB(欧州中央銀行)が大幅な政策金利の引き上げを行ったこと等を受けて、2023年1-3月期に欧州の長期金利は2.5%を超える水準まで上昇しました。その後、3月末にかけてクレディ・スイスの株価が大幅下落したこと等を受けて、金融不安に対する懸念が台頭し、長期金利は低下し、上昇幅を縮小させました。

【外国為替市場】

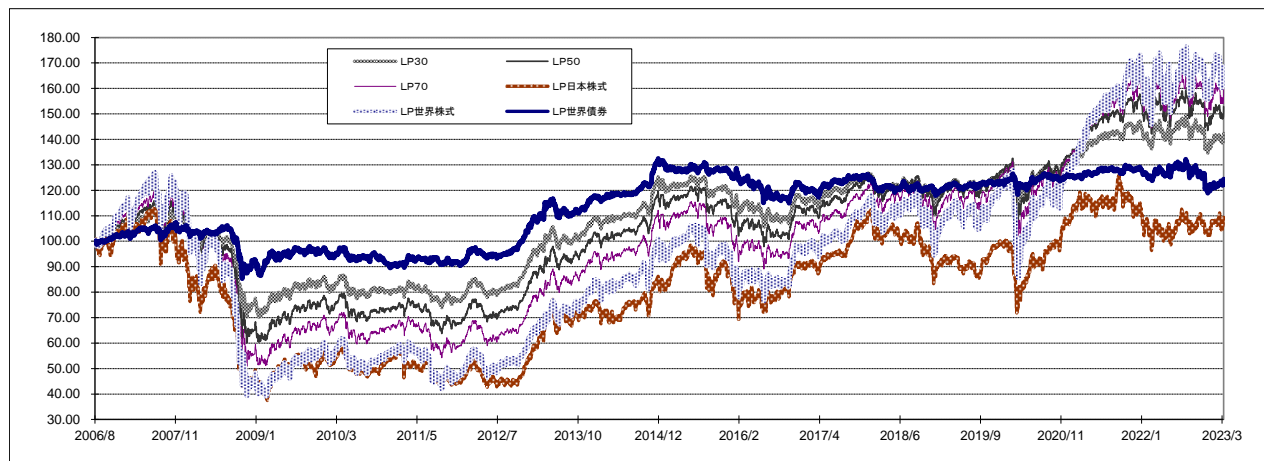
米ドル/円相場は、米ドル高円安となり、年度末には133.53円(前年度末122.39円)となりました。米国の政策金利の引き上げに伴って、米国の長期金利が大幅に上昇する一方で、日銀が超金融緩和を継続したことにより日米金利差が大幅に拡大したことを受けて、2022年10-12月期に150円まで米ドル高円安が進みました。その後、物価上昇の伸びが鈍化したことを受けて米国の長期金利が低下したこと等から、米ドル安円高の展開となり、年度末にかけて米ドルは上昇幅を縮小させました。

ユーロ/円相場は、ユーロ高円安となり、年度末には145.72円(前年度末136.70円)となりました。ECB(欧州中央銀行)の政策金利の引き上げに伴って、欧州の長期金利が大幅に上昇する一方で、日銀が超金融緩和を継続したことにより日欧金利差が大幅に拡大したこと等を受けて、ユーロ高円安の展開となりました。

特別勘定の運用状況 [2023年3月末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



		ライフプロデュース 30	ライフプロデュース 50	ライフプロデュース 70	ライフプロデュース 日本株式	ライフプロデュース 世界株式	ライフプロデュース 世界債券
ユニ ット プ ラ イ ス	2023年3月末	142.31	152.80	159.87	109.34	168.52	124.33
	2022年12月末	136.42	145.62	151.42	103.87	158.25	120.31
	2022年9月末	141.70	149.68	153.99	103.01	158.42	126.97
	2022年6月末	143.68	151.57	155.72	102.77	159.78	129.09
	2022年3月末	145.43	155.77	162.52	107.37	170.67	127.69
2021年12月末	146.53	156.81	163.44	112.64	171.50	128.83	
騰 落 率 (%)	1か月	0.61	0.11	△ 0.36	1.42	△ 1.09	1.34
	3か月	4.32	4.93	5.58	5.26	6.49	3.34
	6か月	0.43	2.09	3.82	6.15	6.38	△ 2.07
	1年	△ 2.15	△ 1.91	△ 1.63	1.83	△ 1.26	△ 2.63
	3年	20.10	33.78	48.75	35.24	74.03	1.36
	設定来	42.31	52.81	59.88	9.34	68.52	24.34

※ 特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100.00として計算しています。

※ 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30			ライフプロデュース50			ライフプロデュース70		
	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)	金額(千円)	比率(%)	基本資産(%)
現預金・その他	13,012	0.4	—	113,309	0.4	—	54,696	0.3	—
その他有価証券	3,043,785	99.6	100.0	27,947,767	99.6	100.0	18,881,585	99.7	100.0
世界株式	918,542	30.0	30.0	14,126,266	50.3	50.0	13,243,514	69.9	70.0
世界債券	2,125,243	69.5	70.0	13,821,500	49.3	50.0	5,638,070	29.8	30.0
合計	3,056,798	100.0	100.0	28,061,077	100.0	100.0	18,936,281	100.0	100.0

項目	ライフプロデュース日本株式		ライフプロデュース世界株式		ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	16,583	0.4	167,621	0.5	23,256	0.4
その他有価証券	3,737,195	99.6	32,368,788	99.5	5,253,671	99.6
合計	3,753,779	100.0	32,536,409	100.0	5,276,927	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用状況 [2023年3月末日現在]

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	ライフロデュース 30	ライフロデュース 50	ライフロデュース 70	ライフロデュース 日本株式	ライフロデュース 世界株式	ライフロデュース 世界債券
	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
利息配当金収入	—	—	—	—	—	—
有価証券売却益	866	7,410	2,873	1,314	—	1,037
有価証券評価益	—	—	—	105,357	38,211	—
有価証券償還益	—	—	—	—	—	—
為替差益	—	—	—	—	—	—
その他収益	—	—	—	—	—	—
有価証券売却損	1,671	11,063	7,761	3,334	4,885	2,097
有価証券評価損	36,517	261,234	103,034	—	—	85,867
有価証券償還損	—	—	—	—	—	—
為替差損	—	—	—	—	—	—
その他費用及び損失	—	—	—	—	—	—
収支差計	△ 37,321	△ 264,887	△ 107,922	103,336	33,326	△ 86,927

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針 当期のユニットプライス騰落率等はP.3をご参照願います。

■ライフロデュース30

全ての資産がマイナスに寄りました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフロデュース50

全ての資産がマイナスに寄りました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフロデュース70

全ての資産がマイナスに寄りました。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

■ライフロデュース日本株式

(以下、バリュー株Mファンド、グロース株MファンドともにGICSセクター別。)

当期の日本を含む世界株式市場は、変動性が高まったものの、前期末比で上昇しました。国内企業の底堅い決算や参議院選挙での与党の大勝、日銀の金融緩和継続の姿勢といったプラス材料の一方で、ウクライナ情勢やコロナ禍の影響への懸念、欧米の利上げを背景とする世界経済への悲観的な見通し、世界的な金融システム不安などがマイナス材料となりました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、バリュー株Mファンドでは、ヘルスケア・セクターでの銘柄選択などがマイナス要因となりました。グロース株Mファンドでは、資本財・サービス・セクターでの銘柄選択などがマイナス要因となりました。各マザーファンドへの基本資産配分をおおむね維持しました。今後も引き続き、適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド1への投資を行う方針です。

■ライフロデュース世界株式

当期の日本を含む世界株式市場は、米国を中心にインフレ懸念やシリコンバレー銀行(SVB)の破綻が世界中で金融不安を引き起こしたため当期末にかけて下落しました。利用する投資信託は、ベンチマーク対比でプラスとなりました。当期の世界株式市場は、企業規模の大きい銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはマイナス寄りました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で少なめに保有していた不動産が下落したことはプラス寄りました。国別では上昇したイタリアの銘柄を少なめに保有していたことはマイナス寄りました。個別銘柄では、ベンチマーク対比で多めに保有していたヘルスケアのGILEAD SCIENCES INC(アメリカ)が上昇したことはプラス寄りました。今後も引き続き、アクサIM・グローバル(日本含む)株式ファンド<適格機関投資家私募>への投資を行う予定です。

■ライフロデュース世界債券

当期の世界の債券市場は、インフレ高進を背景とする欧米当局の積極的な金融引き締め政策を受けて、期を通じて金利はおおむね上昇(価格は下落)基調で推移しました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、ユーロ圏における国債への配分やイールドカーブ戦略が主なプラス要因となりました。一方、ユーロ圏を高めとした国別配分や米国のインフレ連動債への配分が主なマイナス要因となりました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、ユーロ圏における国債への配分やイールドカーブ戦略が主なプラス要因となりました。一方、ユーロ圏を高めとした国別配分や米国のインフレ連動債への配分が主なマイナス要因となりました。今後も引き続き、適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド1への投資を行う方針です。

《参考情報》 利用する投資信託 [2023年3月末日現在]

投資信託名	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド1							
委託会社	アライアンス・バーンスタイン株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリュー株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いバランス ¹⁾ を行います。 ※当投資信託は、主として、バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュー株・マザーファンド受益証券、アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券に投資します。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM):TOPIX(東証株価指数 配当込) ²⁾ ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。
	投資信託	1.51	5.55	6.72	2.88	41.80	32.94	
	BM	1.70	7.21	10.70	5.81	53.38	79.26	
	差	△0.19	△1.66	△3.98	△2.94	△11.58	△46.32	

投資信託名	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド (適格機関投資家私募)							
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャー株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ※当投資信託は、主としてアクサ IM・グローバル(日本除く)株式マザーファンド受益証券ならびにアクサ ローゼンバーク・日本株式マザーファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM):MSCIワールド・インデックス ³⁾ (配当込み・日本円換算) ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2015年9月30日)を起点として計算しています。
	投資信託	△1.01	6.80	6.96	△0.32	82.76	104.58	
	BM	△0.43	6.79	6.78	△1.12	90.75	133.55	
	差	△0.57	0.01	0.18	0.80	△7.99	△28.97	

投資信託名	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド1							
委託会社	アライアンス・バーンスタイン株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に相対的投資価値分析を基本として信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。 ※当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM):FTSE世界国債インデックス(円ベース) ⁴⁾ ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。
	投資信託	1.43	3.61	△1.62	△1.69	4.66	56.22	
	BM	1.14	2.83	△1.25	△1.33	3.66	58.64	
	差	0.29	0.78	△0.37	△0.36	1.01	△2.42	

年金払定期付積立型変額保険

用語説明

- *2 「TOPIX(東証株価指数 配当込)」とは、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出し公表する、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。
なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
- *3 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス(配当込み・日本円換算)は、MSCIワールド・インデックス(配当込み・ドル建て)をもとに、わが国の対顧客電信売相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。
- *4 「FTSE世界国債インデックス(円ベース)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
同指数のデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。
このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

年金払定期付積立型変額保険のリスクおよび諸費用について ①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額保険です。特別勘定資産の運用には、資産配分リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、カントリー・リスク、流動性リスク、為替リスク、派生商品取引のリスクなどがあります。これらのリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。(払いもどし金額および満期保険金額に最低保証はありません。)
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填することはありません。

【諸費用について】

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

＜第1回の年金のお支払事由発生前にかかる費用＞

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費(保険料比例部分) *契約日が2013年10月1日以前のご契約者様	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 3.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(保険料比例部分) *契約日が2013年10月2日以降のご契約者様	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 5.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費(定額部分)	毎月250円(固定費)	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。(当月分の費用を当月末に積立金から控除します。)
保険契約管理費(危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、 0.01%/月	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。(日々の危険保険金額の平均にもとづく当月分の費用を当月末に積立金から控除します。)
保険契約管理費(積立金額比例部分)	積立金額に対し、 年率1.00% (1.00%/365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

※ 危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額を記載することが困難であり、表示することはできません。また、危険保険料率は、被保険者の年齢、性別によって異なります。詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

○ 毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、保険契約管理費(危険保険金額比例部分)に高額割引制度が適用され費用が少なくなります。ただし、基本年金年額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となった場合には、高額割引は適用されなくなります。

年金払定期付積立型変額保険のリスクおよび諸費用について ②

<積立金の移転や解約などにかかる費用>

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	【書面による移転申込みの場合】 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき2,300円 ^(*)	1か月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
		【インターネットによる移転申込みの場合】 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき800円 ^(*)	
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%~0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日のご契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切上げ)に応じて、積立金に対する解約控除額(10%~1%)と危険保険金に対する解約控除額(0.50%~0.05%)の合計額を解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)	一部引出日ご契約日より起算して10年未満の場合には、経過年数に応じて計算した金額を、一部引出請求金額から控除します。

(*) 1月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

※ 積立金移転時は、その際必要となる移転費用の2倍相当額以上の積立金残高が必要です。

※ 解約控除の詳細については、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

※ 基本年金年額の減額、ご契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

※ 将来、前記の内容が変更になることがあります。

●運用関係の費用

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30 年率0.56540%程度 (税抜年率0.5140%程度)	投資信託の純資産額に対して、 毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50 年率0.56100%程度 (税抜年率0.5100%程度)	
		ライフプロデュース70 年率0.55660%程度 (税抜年率0.5060%程度)	
		ライフプロデュース日本株式 年率0.90200%程度 (税抜年率0.8200%程度)	
		ライフプロデュース世界株式 年率0.55000%程度 (税抜年率0.5000%程度)	
		ライフプロデュース世界債券 年率0.57200%程度 (税抜年率0.5200%程度)	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬のほか、信託事務の諸費用など、有価証券の売買委託手数料および消費税などの税金などの諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量などによって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動などの理由により、将来変更される可能性があります。

※ 「ライフプロデュース30」「ライフプロデュース50」「ライフプロデュース70」の運用関係費は、主な投資対象である投資信託の信託報酬率を基本資産配分比率で加重平均した概算値です。各投資信託の信託報酬率はそれぞれ異なりますので、各投資信託の価格の変動などに伴う実際の配分比率の変動により、運用関係費も若干変動します。

<第1回の年金のお支払事由発生以後にかかる費用>

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1.0%*	年金支払開始日以後、 年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

* 記載の費用は上限です。年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <https://www.axa.co.jp/>